

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03187

研究課題名(和文) 異文化交渉の動態と位相 ロマン主義テキストの受容と再構築の過程を考究する

研究課題名(英文) Dynamic Phases of Cultural Negotiations: Exploring Receptions and Reconstructions of Romantic Texts

研究代表者

大石 和欣 (Oishi, Kazuyoshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50348380

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、イギリス・ロマン主義の文学テキストがヴィクトリア朝時代において再構築された過程を共同研究として考究した。イギリスの海外覇権が伸長したロマン主義時代の詩には異文化との思想的・文化的交渉が包摂されている。イギリスの帝国覇権がアジアにおいても確立するヴィクトリア朝時代、ロマン主義的異文化交渉はどのように受容され、再構築されていった過程を、とりわけコウルリッジの思想・哲学がラスキンやモリス、アーノルドなど19世紀の思想家に受容されていった過程、スキンやモリスの著作全体、都市や建築物の表象、またラファエル前派やオスカー・ワイルドにおけるロマン主義の影響を通して詳細に吟味し、成果として公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、異文化との衝突・交渉・融合を織り込んだイギリス・ロマン主義の文学テキストが、さらに多様な文化と接触するにいたったヴィクトリア朝時代において再構築された過程を共同研究として考究した。ロマン主義時代の文学作品にはオリエントを含む異文化との思想的・文化的交渉が包摂されているが、イギリスの帝国覇権がアジアにおいても確立するヴィクトリア朝時代において、そうしたロマン主義的な異文化交渉およびその思想が文学作品や思想に影響を与え、文化を構築して行った過程を考察することで、現代とも共通性が高いかたちで、グローバル化し、流通と消費に浸食され、移動と異文化交渉に憑りつかれた文学と想像力の位相を照射した。

研究成果の概要(英文)：This research studied the way in which English Romantic Literature was received and reconstructed in the Victorian age, with a special focus on the process of cultural negotiations, which was prominent in Romantic literature and was developed in Victorian writings. Along with the expansion of British imperial power in the 19th century, cross-cultural negotiations were facilitated and reflected upon the thoughts and writings of the Victorian age. The principal researcher and co-researchers of this project examined how poetical texts, ideas, and philosophy of Wordsworth, Coleridge, Keats are incorporated and interwoven in the texts of Victorian poets and writers and painters, including Tennyson, Ruskin, Morris, and Pre-Raphaelites in the context of expanding British Empire. Their political and social implications and elements of orientalism in the texts are also examined.

研究分野：イギリス文学

キーワード：イギリス・ロマン主義 オリエンタリズム ヴィクトリア朝 グローバリゼーション 他者 異文化想像力

1. 研究開始当初の背景

本研究は大石和欣（代表者）がアルヴィ宮本なほ子（分担者）および David Vallins（分担者）との過去 5~6 年間に行った共同研究を発展させたものである。科研費（基盤 B）「ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景—国家意識・国民意識の変容を中心にして」（平成 20~24 年度、研究代表者 草光俊雄）において、大石とアルヴィは研究分担者としてロマン主義時代に量産され出す旅行記に「イギリス」という国および国民性の意識が異文化との遭遇・交渉を通じて発芽する過程を読み解き、同時代の文学作品にも同じ現象が見られることを複数の論文および主催した国際学会を通して証明した。また大石は研究代表者として科研費（基盤 B）「他文化=多文化への眼差し—コウルリッジとロマン主義文学における異文化間交渉の位相」（平成 21~24 年度）を遂行し、アルヴィと Vallins とともに Coleridge の詩に多数の「他文化」が包摂されていく過程を捉え、国際学会を主催し、その成果の一部を Vallins との編著 *Coleridge, Romanticism, and the Orient: Cultural Negotiations* (Bloomsbury, 2013)、Felicity James との編著 *Cross-Cultural Negotiations: Romanticism, Mobility and the Orient. POETICA 75 (Special Issue)* (2011) を通じて国際的に発信した。

その過程で追究すべき斬新な研究テーマとして浮上したのが異文化交渉を内包するロマン主義文学テキストが次の時代にどう受容されていったのかという問いである。アルヴィは単著“*Strange Truths in Undiscovered Lands*”: *Shelley's Poetic Development and Romantic Geography* (2009) で P. B. シェリーのテキストには地理的な「旅」や「移動」を通して想像力による異文化受容のプロセスが潜在していることを開示したが、同じことは他のロマン主義テキストについても言える。しかし、1830 年以後のロマン主義的異文化交渉の受容・解釈については研究が未発達であった。確かにヴィクトリア朝時代の小説と帝国主義、オリエンタリズム、人種問題については優れた研究が多いが、詩に関しては Tennyson の叙事詩 *The Idylls of the King* や Edwin Arnold の作品における帝国主義を指摘した Colin Graham, *Ideologies of Epic: Nation, Empire, and Victorian Epic Poetry* (1998) 以後見るべきものがなかった。Saree Makdisi, *Romantic Imperialism: Universal Empire and the Culture of Modernity* (1998) はロマン主義詩に資本主義がもたらす近代性への抵抗を読み込み、ヴィクトリア朝文学との関連性を指摘した画期的な研究だが、ロマン主義を中心にした理論的解釈に留まる。また、Mark Sandy が編集した論集 *Romantic Echoes in the Victorian Era* (2003)、*Romantic Echoes in the Twentieth Century* (2012) ではロマン主義文学の継承を後世のテキスト上の呼応関係のみに限定している。本研究の焦点は帝国主義そのものではない。帝国主義を前提として展開された異文化交渉の動態を詩や散文のテキスト、それをベースにした絵画の中から紡ぎだし、そこにロマン主義詩からの継続性と断絶性を吟味することを目指した。それゆえに、ロマン主義に造詣が深く、関連するヴィクトリア朝詩・散文・絵画・思想の領域に優れた研究実績を持ち、これまで大石とも共同研究やワークショップを通して研究交流を図ってきた川端康雄（分担者）、山口恵里子（分担者）、田中裕介（分担者）に研究分担者に加わってもらった。

2. 研究の目的

本研究は、異文化との衝突・交渉・融合を内部に織り込んだイギリス・ロマン主義の文学テキストが、さらに多様な文化と接触するにいたったヴィクトリア朝時代において再構築された過程を共同研究として考究する。イギリスの海外覇権が伸長したロマン主義時代の詩には、オリエンを含む異文化との思想的・文化的交渉が包摂されている。同時代の旅行記が「接触域」における異文化遭遇の衝撃を記録したのと並行する言語活動である。イギリスの帝国覇権がアジアにおいても確立するヴィクトリア朝時代、ロマン主義的異文化交渉はどのように受容され、再構築されていったのか。Tennyson や Pre-Raphaelites、Wilde へのロマン主義の影響は当然視されるが、審美的な意味に限定されている。重要なのは、異文化との接触が加速化し大衆化する 19 世紀において、前時代のテキストはグローバル化、異文化交流という現代的視点からも再解釈されていった点である。本研究では異文化交渉を胚胎したロマン主義詩テキストの遺産をヴィクトリア朝時代および 20 世紀初頭の言説・表象の内奥に読み解くことで国際基準の研究成果を目指す。グローバル化し、流通と消費に浸食され、移動と異文化交渉に憑りつかれた文学と想像力の位相を照射することを目指した。

本研究では 5 年に渡ってロマン主義時代からヴィクトリア朝、さらには 20 世紀初頭にいたるまでの帝国主義がもたらした異文化同士の衝突・交渉・融合の歴史的過程を吟味しながら、それらの位相をまだ研究が貧弱な詩や散文、ラファエル前派などの絵画の中に見出し、その文化的意義を捉えることを計画した。ロマン主義の遺産は、これまで理解されていた 19 世紀の審美主義的言説や表象ではなく、拡張し加速化する 19 世紀の帝国主義的覇権とその結果としての文化的アイデンティティの動揺と不安をともなった異文化交渉の言説と表象に内包されていると考えた。ヴィクトリア朝文学にロマン主義のテキストが提供したのは絵画的イメージだけではなく、時代が経験した異文化交渉であり、それが惹起した衝撃と不安、ときに憧憬ではなかったろうか。唯美主義、デカダンス、モダニズムという一連の文藝思潮の背後には流通、消費、人間の移動を伴ったグローバル化、その結果としての多様な文化と人種の混淆、言語の混合と変容、アイデンティティの多重化が共通項として潜在する。とすればモダニズムに顕著なコスモポリタニズムは、ロマン主義の反証ではなく再構築として解釈できないかと考えた。カントが提言した超国家的共同体を志向するコスモポリタニズムは、他文化を取り込みながら神話的世界、脱イギリス的空間を構築するロマン主義とモダニズムの両方に通底する。それは Said が西洋イデオロギーに基づいた学術的脱構築物として定義するオリエンタリズムでは捕捉できないダイナミズムを持つ。Makdisi は資本主義がもたらす近代性への抵抗にロマン主義の意義を見出したが、私たちはむしろ文学テキストは流通・消費に浸食されており、そこに異文化交渉の現場を読み解くことでロマン主義の

モダニズム性を見出すべきであると考え、研究を遂行した。

3. 研究の方法

本研究の遂行に当たっては、5年間をかけて有機的かつ体系的に整理しながら異文化交渉を胚胎したロマン主義文学の継承をヴィクトリア朝、さらには20世紀初頭の文学の中に考究していく。テキスト内の異文化交渉の動態を分類し、その継承の在り方を体系化する作業を1年目に徹底して行うことで、2年目以降に分析すべきテキストやケースを絞り込み、研究の効率化と成果の向上を図る計画を立てた。歴史的な脈における間テキスト性に関わる問題であり、ロマン主義時代からヴィクトリア朝時代、20世紀初頭を時代順に段階的に調査を進めることにした。分析対象とテーマを役割分担することで効率化を図るが、研究者同士が孤立しないように大石（代表者）の指揮のもと研究分担者、研究協力者同士の恒常的で密な連絡と研究会を継続し、検証結果は全員で再検証を行った上で活字として公開していった。未発掘の資料開拓を含めながら研究を遂行し、国内外での学会発表や投稿を通じた学術交流を率先して行い、研究成果の発信を積極的に果たしていくことにした。

イギリスの帝国主義が拡大する時代における異文化交渉というテーマを扱いながら、ロマン主義の詩、ヴィクトリア朝詩・散文・絵画、最終的にはモダニズム文学のテキスト内にその位相を辿っていく本研究は、時代と領域の双方を横断するスケールの大きな研究である。歴史的背景への理解、異文化交渉という事象の複雑さ、先行研究の乏しさといった研究遂行上の困難もあるが、それぞれ十分な研究実績を持つ分担研究者と研究協力者との密な連絡の上に有機的な共同研究を行い、分析対象を絞り込むことで研究の効率化を図ることで困難を克服しようと試みた。当初は3~4年間の共同研究として構想したが、打ち合わせ繰り返すなかで、扱う時代と領域が広いことを踏まえると、5年間の研究として実現可能性を優先すべきであるという結論に達した。組織的かつ段階的に研究を遂行することで質の高い成果を目指す計画を立てるにいたった。歴史研究や文化研究と絡む要素も多いが、文学研究としての実証性を重んじる。19世紀についてはデータベースを含めて国内資料調査が難しいケースが予想され、夏期・春期の休暇中に海外調査を行い、それに合わせて国際学会での研究発表や海外研究者たちとの連携を図ることにした。

4. 研究成果

1年目 平成27年度は科研開始初年度であり、当初の計画通り異文化交渉のさまざまな位相について大石が中心となってロマン主義時代の文学におけるパターンの基礎研究と分析を行うと同時に、分担研究者それぞれがテーマと役割にしたがって後の時代の個別ケースの調査研究を進めた。

年度の前半は、イギリス帝国主義の拡張とともに顕著になった異文化交渉の現象をロマン主義文学の中で精査し、分類と理論化を試みた。異文化交渉の現場で付随する支配・被支配というヒエラルキーを形成する政治的力学がどのようにこの時代の旅行記や関連言説のなかに埋め込まれているかを調査・分析しながら、19世紀の文学言説のなかにそのパターンを探っていく。旅や移動に伴い発生する異文化接触の現場は流動的であり、文化的ヒエラルキーさえも常に逆転されうる不安定なものとして浮かびあがらせながら、「異」なるものの描写や表現に、共感、憧憬、反発のみならず、グローバル化そのものへの批判的視線や抵抗、不安が潜んでいることが明らかにしつつある。後半に各研究分担者によって進められた研究では、ラスキン、ラファエル前派、ラファディオ・ハーン、明治期における日本のロマン主義文学のなかに異文化交渉の位相を探り、それと上述のロマン主義における異文化交渉の位相との比較・考察を歴史的な脈のなかで行った。

成果の公表としては雑誌論文6件、研究発表5件（うち招待講演3件）、図書2件がある。

とくに重要な成果公表論文としてはアルヴィ宮本なほ子「天上の光の啓示とシビラの預言——イギリス・ロマン主義の「夜想」から2100年の終末へ——」*ODYSSEUS* (2015年) 59-85頁、川端康雄「転機の旅——ラスキンのイタリア旅行（一八七四年）をめぐって」『ラスキン文庫便り』(2015年) 6-7頁がある。また学会発表として大石和欣（Kaz Oishi）（招待講演），“Coleridge and Philanthropy in the 1810s: *Lay Sermons Revisited.*” *Wordsworth Conference* (2015年8月)、田中裕介「ヴィクトリア朝批評における「均衡」の観念」日本英文学会全国大会（2015年5月）、田中裕介（招待講演）「戦後保守主義へのアフェクション——三島由紀夫と吉田健一」国際三島由紀夫シンポジウム（国際学会）（2015年11月）、川端康雄「囲われた庭と旅の記憶——『プラエテリタ』のスタイル」テキスト研究学会第15回大会（「ラスキンのスタイル」シンポジウム）（2015年8月）を行った。

2年目 研究会の開催は計画より少ない回数だったが、学会などでの研究発表を通して研究成果について意見交換を行い、おおよそ研究計画にもとづいたかたちで調査が進展した。ロマン主義の受容をヴィクトリア朝における帝国主義の枠組みから浮かび上がらせると同時に、モダニズムの文脈にまで広げた。大石は調査全体を統括しながら、ラファディオ・ハーンの英文学講義から見える世紀末の欧米および明治期のロマン主義受容を分析した。アルヴィは、イギリス・ロマン主義の歴史的な脈での異文化交渉を体系化する試みとして、ナポレオン戦争を抒情詩のジャンルとして扱うヘマンズの詩を検証し、論文にまとめた。川端は、ウィリアム・モリスが政治的コミットメントとして書いた一連の運動歌を取り上げ、それらがイギリス・ロマン派の伝統を継承する側面と、それとは一見異質に見えるマルクス的な側面の併存という問題について考察した。またモリスと同時代のジャーナリストであるW・T・ステッドの「現代バビロンの乙女御供」キャンペーンの経緯と功罪を

論じた。山口は、19世紀イギリスのオリエントにおける植民地政策と美術教育の関連性を、ジョン・ロックウッド・キプリングがインドの美術学校で行った教育と彼の素描作品から追究し、研究成果を論文「ジョン・ロックウッド・キプリングとインドのクラフツマンシップ—未来への記録」として発表した。田中は、大英博物館、サウス・ケンジントン博物館など英国ヴィクトリア時代の文化施設におけるオリエンタリズムの浸透について調査を進めるとともに、三島由紀夫、吉田健一など近代日本の文学者におけるオリエンタリズムの還流についても研究成果を一部発表した。ヴァリンズは、ロマン主義とモダニズムとの関係について哲学的側面から考察すると同時に、ロマン主義のポスト・モダニズム性について論文を書いた。

成果の公表としては雑誌論文3件、研究発表5件（うち招待講演2件）、図書5件がある。

とくに重要な成果公表論文としては山口恵里子「ジョン・ラスキンとイメージの人類学—共感の形象可能性」『ラスキン文庫たより』(2017) 1-5 頁がある。また学会発表として大石和欣 (Kaz Oishi) “Romanticism, Exoticism, and the Language of the Ghostly,” *Wordsworth Conference* (2016年8月)、大石和欣(招待講演)「巡礼詩誦—歩く詩人ワーズワスの作品と生涯」「歩く詩人—ワーズワスと芭蕉」展講演会(2016年9月)、大石和欣 (Kaz Oishi) (招待講演) “Mystifying Without Diminishing the Literary Text: What Can We Learn from Lafcadio Hearn’s Lectures on English Literature?” *The 8th Liberlit Annual Conference* (2017年2月)、山口恵里子「ジョン・ラスキンとイメージの人類学」ラスキン文庫(2016年11月)、Yusuke Tanaka (田中裕介) “Anthony Panizzi and the politics of museums in Victorian Britain,” 消費文化史研究会国際シンポジウム (2017年3月)を行った。公刊図書として山口恵里子が論文を寄稿した小野寺玲子編『イギリス美術叢書I ヴィジョンとファンタジー—ジョン・マーティンからバーン＝ジョーンズへ』(ありな書房、2016年)、同じく山口恵里子が論文を寄稿した江藤秀一編『帝国と文化—シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』(春風社、2016年)、田中裕介が論文を寄稿した井上隆史/久保田裕子/田尻芳樹/福田大輔/山中剛史(編)『混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界』(水声社、2016年) 285-294 頁がある。

三年目 本年度はおもに世紀末のイギリスと日本における文学作品を中心にロマン主義の受容を再考しつつ、絵画・芸術分野におけるロマン主義の影響を考察した。そのうえで植民地主義との関係にも視野を広げていくべく調査を進めた。研究分担者川端が受入研究者となっている外国人研究者招へい事業(長期)プログラムにより招へいたキース・ハンリー教授の講演を6月に行い、またメール等や論文の回覧により研究の進捗状況を適宜確認しながら、平成30年7月に予定されている国際学会の準備を進めた。

大石はラフカディオ・ハーンにおける“the Diaphanous”の概念を、ロマン主義の崇高に関わる概念とテキストの系譜のなかに位置付けると同時に、19-20世紀建築におけるロマン主義性についての論文を書き進めた。山口はイギリスの現代芸術家リチャード・ロングの作品を、ロマン主義の系譜のなかに位置づけ、その作品が日本という場においていかなるロマン主義的な「転移」をもたらしたのかを考察し、学会発表を行った。現在、論文として執筆している。田中はオスカー・ワイルドの文学的活動の基礎をなす「文献学」との関わりについて調査を進め、その成果の一部を発表した。また、ウォルター・ペイターの文学的活動の背景をなす同時代イタリアの文化的環境について調査を進め、その成果についての論文を準備した。アルヴィは19世紀末から20世紀初頭におけるロマン主義テキストの受容について検討した。特に、イギリスで英文学が制度として確立していく時期にイギリスに留学したイギリスの海外植民地の出身者、日本の英文学者に対するイギリス・ロマン主義の影響を考察した。川端はラスキン文庫所蔵の御木本隆三コレクションのうち、ジョン・フォーンソープ旧蔵書をはじめとするラスキン関連文献の多くに見られる欄外メモおよび添付書類について、キース・ハンリー教授の協力を得て調査をおこなった。

成果の公表としては雑誌論文3件、研究発表9件（うち招待講演4件）、図書2件がある。

とくに重要な成果公表論文としては大石和欣「洞窟からのため息—洞窟壁画、竹山道雄、ロマン主義的ファンタジア—」『言語・情報・テキスト』第24号(2017年) 41-62 頁、アルヴィ宮本なほ子「漱石の淡黄の花——『草枕』とイギリス・ロマン主義」『比較文学研究』第103号(2017年) 7-38 頁がある。また学会発表として大石和欣 (Kaz Oishi) “The Aesthetics of the Diaphanous and the Philosophy of the Ghostly in Lafcadio Hearn’s Writing,s” 山口恵里子 (Eriko Yamaguchi) “Richard Long’s Walk Works in Japan: Transference,” いずれも “The Aesthetics of Imperfection / Perfection” (2017年4月)、大石和欣(司会・序論)「南方熊楠から見たヴィクトリア朝—科学と神秘主義と文学」ヴィクトリア朝文化研究学会第17回大会(2017年11月)、田中裕介(発表)「文献学者オスカー・ワイルド」日本ワイルド協会第42大会(2017年12月)、アルヴィ宮本なほ子 (Nahoko Miyamoto Alvey) “Between ‘Bird-track’ Eastern Writing and ‘Sidewise Crab-walk Western Writing’: Tradition and Modernity in Natume Sōseki.” Seminar Series: School of English, Film, Theatre, and Media Studies, Department of English, Victoria University of Wellington. Wellington, NZ (2017年6月)を行った。公刊図書として大石和欣 (Kaz Oishi) が論文を寄稿した Peter Cheyne (ed.), *Coleridge and Contemplation* (Oxford University Press, 2017年) 123-142 頁がある。

4年目 本年度は計画通り国際学会“Romantic Regenerations”を7月に主催し、イギリス・ロマン主義の位相を、イギリスやヨーロッパのみならずアジアを含めた地域において文化交渉と受容の観点から探った。本科学研究成果の一部もここで公開し、新しい知見のなかで検証した。大石は国際学会を主催すると同時に、ラフカディオ・ハーンを中心に、日本におけるロマン主義受容とその美学を複数の学会発表および論文で公表し、コウル

リッジについての論文集をまとめた。山口は、ラファエッロ以前の芸術に回帰しようとした 19 世紀ヨーロッパ芸術の動向を、イギリスのプリミティヴィズムとロマンティシズムの関連から検証した論文を共著出版し、また現代芸術家リチャード・ロングの「足跡の芸術」が示唆する不完全性の美学、オスカー・ワイルドとコナン・ドイルが描くインテリアが示唆する刻印から印象へと向かう美学的移行について学会発表した。アルヴィはイギリス・ロマン主義のテキストの再構築の様態を、イギリスに移住したフューズリ、ヴィクトリア朝の非知識人、イギリスと異文化圏を往還する 20 世紀のアジアの文学者が再構築するワーズワス、キーツを例に考察し、成果の一端を日本英文学会で発表した。田中は、ヴィクトリア時代のマシュー・アーノルド、ウォルター・ペイター、オスカー・ワイルドの批評テキストについて、それらが前提としている歴史的含意を、聖書を含む古典と東方に関する同時代の学知との関わりにおいて検討した。川端はウィリアム・モリスの日本での受容に関して、1960 年代から 80 年代初めにモリスの活動を総合的に捉えた研究者小野二郎の業績について調査し、2019 年に世田谷美術館にて開催される小野二郎展の学術研究員として企画・実施に関わった。ヴァリンズは 19 世紀から 20 世紀前半におけるロマン主義受容についての単著を執筆した。

成果の公表としては雑誌論文 7 件、研究発表 6 件（うち招待講演 3 件）、図書 4 件がある。

主な雑誌論文として田中裕介「文献学者オスカー・ワイルド」『オスカー・ワイルド研究』17（2018 年）37-54 頁がある。研究発表・講演としては大石和欣（Kaz Oishi）“Hearn, Romanticism, and the Diaphanous,” 山口恵里子“Richard Long’s Walk-Works in Japan: Transference,” 本科学国際学会 Romantic Regenerations: An International Conference（2018 年 7 月）、アルヴィ宮本なほ子（招待講演）「When a new planet swims into my ken——イギリス・ロマン派の詩を読む時間と場所」日本英文学会全国大会（5 月）、山口恵里子（招待講演「芸術と犯罪—ワイルドとホームズの「インテリア」」日本ワイルド協会第 43 回大会シンポジウム、田中裕介「＜黄金の書＞としての聖書—マシュー・アーノルドの宗教認識」第 5 回日本ペイター協会年次大会シンポジウム、川端康雄「文化と小芸術」日本英文学会第 90 回大会シンポジウム「文化」を考える——日本英文学会における文化研究の可能性」を行った。主な公刊図書として大石和欣が論文を寄稿した河内恵子編『現代イギリス小説の「今」』（彩流社、2018 年）、大石和欣とアルヴィ宮本なほ子がそれぞれ論文を寄稿した Alex Watson and Lawrence Williams (ed.), *British Romanticism in Asia* (Palgrave, 2019 年)、山口恵里子が論文を寄稿した『前ラファエッロ主義』（三元社、2018 年）がある。

5 年目 本年は本科研最終年度であり、研究のとりまとめを行うことになっていたが、代表者である大石の校務の都合で一部とりまとめが完了していないが、大石が編集し、アルヴィおよびヴァリンズが寄稿している論集『コウルリッジのロマン主義』など意義ある研究書を公開できたことは実績と言える。また、各研究分担者を含めてそれぞれ研究のとりまとめを終了した。大石はロマン主義の影響を 19 世紀以降の文学における都市論や建築表象のなかにたどった単著『家のイングランド』、コウルリッジの思想とその影響や 19 世紀から 20 世紀における意義を吟味した論文集『コウルリッジのロマン主義』を編集した。後者には研究分担者アルヴィおよびヴァリンズも寄稿している。アルヴィはイギリスロマン主義のテキストの異文化圏における再構築の様態を、20 世紀初頭の日本のイギリスロマン主義の受容、宗主国イギリスと東洋のイギリス（旧）植民地の母国を往還する 20 世紀のアジアの文学者のイギリスロマン主義のテキストとの対峙と新しい文学の創造の観点から考察し、ワーズワス、シェリー、キーツを中心として 2 篇の論文（英文論文、日本語論文）に纏めた。川端は 2018 年度から準備していた世田谷美術館での特別展「ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校」（会期：2019 年 4 月 27 日～6 月 23 日）に学術研究員として企画・実施に関わり、図録への執筆、編集に協力した。また 10 月 7 日から 10 月 9 日までヴェネツィア大学での国際会議 *Convegno internazionale «Una grande comunità»: l’Europa di John Ruskin* に出席し、口頭発表した。山口はラファエル前派、とりわけ D.G. ロセッティのジャポニズム、オリエンタリズム論を含む英文の著書を執筆した。イギリスの出版社より来年度に刊行予定。また、イギリスの現代作家リチャード・ロングのイギリス・ロマン主義を継承しているといわれる歩行作品について調査し、ロングが日本で制作した作品におけるオリエンタリズムの乗り越えとしての「転移」の思想について考察した。

成果の公表としては雑誌論文 4 件、研究発表 3 件（うち招待講演 2 件）、図書 2 件がある。

主な雑誌論文としては、大石和欣「Austen の公共圏」『関東英文学研究』第 11 号（2019 年）1-10 頁、アルヴィ宮本なほ子「When a new planet swims into my ken——イギリス・ロマン派の詩を読む場所と時間」『ODYSSEUS』第 23 号（2019 年）45-63 頁、川端康雄「「志業」の一系譜——柳宗悦、壽岳文章、小野二郎」（リレー連載「アーツアンドクラフツ運動と民藝運動」第六回）『紫明』第 46 号（2020 年）62-69 頁、山口恵里子「刻印から印象へ——ワイルドとホームズの「インテリア」」『オスカー・ワイルド研究』18 号（2019 年）63-84 頁がある。主な研究発表は川端康雄「ウィリアム・モリスと小野二郎」（2019 年 5 月）、Kawabata, Yasuo. “John Ruskin and Kenji Miyazawa: An Idea of Nomin Geijutsu (Peasant Art) and Its European Legacy,” *Convegno internazionale «Una grande comunità»: l’Europa di John Ruskin (Università Ca’ Foscari Venezia)*（2019 年）を行った。図書としては、大石和欣『家ノイングランド—社会の変貌と建築物の詩学』（名古屋大学出版会、2019 年）、大石和欣、アルヴィ宮本なほ子、デイヴィッド・ヴァリンズの論文を含む大石和欣編『コウルリッジのロマン主義—その詩学・哲学・宗教・科学』（東京大学出版会、2020 年）、川端康雄編『ある編集者のユートピア——小野二郎：ウィリアム・モリス、晶文社、高山建築学校』（世田谷美術館、2019 年）を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 33
2. 論文標題 コスモポリタニズムの歴史的文脈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本18世紀学会年報	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 大石和欣	4. 巻 2
2. 論文標題 Composed upon the Millennium Bridge -- 七色の朝祷（マタン）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 午前四時のブルー	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 アルヴィ宮本なほ子	4. 巻 3358号
2. 論文標題 （書評論文）松下哲也『ヘンリー・フーズリの画法 物語とキャラクター表現の革新』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 週刊図書新聞	6. 最初と最後の頁 第5面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 アルヴィ宮本なほ子	4. 巻 16
2. 論文標題 （書評論文）Tom Mole, What the Victorians Made of Romanticism: Material Artifacts, Cultural Practices, and Reception History (Princeton University Press, 2017)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ヴィクトリア朝文化研究』	6. 最初と最後の頁 275-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中裕介	4. 巻 17
2. 論文標題 文献学者オスカー・ワイルド	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『オスカー・ワイルド研究』	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中裕介	4. 巻 16
2. 論文標題 (書評論文) Wendy Graham, Critics, Coteries, and Pre-Raphaelite Celebrity/ Clare Barlow, ed. Queer British Art 1867-1967	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ヴィクトリア朝文化研究』	6. 最初と最後の頁 253-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 303
2. 論文標題 書評論文 詩人モリス出世作の全訳 ウィリアム・モリス著、森松健介訳『地上の楽園 春から夏へ』 『地上の楽園 秋から冬へ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央評論	6. 最初と最後の頁 236-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 24
2. 論文標題 洞窟からのため息 洞窟壁画、竹山道雄、ロマン主義的ファンタジア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語・情報・テキスト	6. 最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 1
2. 論文標題 Hope, Education, and Oeconomy: Questioning the 'Well-Being' of the Nations in Early-Nineteenth-Century Britain	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The 3rdHistory of Consumer Culture Conference (Proceedings)	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アルヴィ宮本なほ子	4. 巻 103
2. 論文標題 漱石の淡黄の花 『草枕』とイギリス・ロマン主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 比較文學研究	6. 最初と最後の頁 7-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣 (Kaz Oishi)	4. 巻 30
2. 論文標題 (書評論文) Alan D. Vardy, Constructing Coleridge: The Posthumous Life of the Author (London: Palgrave, 2010), 196pp. viii. William Wordsworth, Fragments Including Hawkshead and the Ferry and The Sublime and the Beautiful, ed. Rainer J. Hanshe, intro. Alan D. Vardy. (New York: First Contra Mundum Press, 2013), 83pp.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Keats-Shelley Review	6. 最初と最後の頁 94-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 2
2. 論文標題 バーン・ジョーンズ展	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 三菱一号館美術館研究紀要	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 n/b
2. 論文標題 稀代の工匠の全体像描く - 蛭川久康『評伝ウィリアム・モリス』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 産経新聞 (2016年7月24日朝刊)	6. 最初と最後の頁 n/b
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大石和欣	4. 巻 30
2. 論文標題 (書評) ホレス・ウォルポール著、千葉康樹訳『オトラント城』 / エドモンド・パーク著、大河内昌訳『崇高と美の起源』 (研究社、2012年) 342頁。Paul Smethurst, Travel Writing and the Natural World, 1768-1840 (Basingstoke: Palgrave, 2012)	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本18世紀学会年報	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アルヴィ宮本なほ子	4. 巻 20
2. 論文標題 天上の光の啓示とシビラの預言 イギリス・ロマン主義の「夜想」から2100年の終末へ	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ODYSSEUS	6. 最初と最後の頁 59-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 70
2. 論文標題 (書評) 「モリス的ユートピアの諸変奏」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ラスキン文庫たより	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 13
2. 論文標題 (書評) Yoshiko Seki, The Rhetoric of Retelling Old Romances: Medievalist Poetry by Alfred Tennyson and William Morris (Tokyo: Eichosha, 2015)	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ヴィクトリア朝文化研究	6. 最初と最後の頁 183-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川端康雄	4. 巻 71
2. 論文標題 転機の旅 ラスキンのイタリア旅行(一八七四年)をめぐる	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 ラスキン文庫たより	6. 最初と最後の頁 6-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計25件(うち招待講演 12件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 大石和欣 (Kaz Oishi)
2. 発表標題 Hearn, Romanticism, and the Diaphanous
3. 学会等名 Romantic Regenerations: An International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 アルヴィ宮本なほ子
2. 発表標題 When a new planet swims into my ken イギリス・ロマン派の詩を読む時間と場所
3. 学会等名 日本英文学会第90回大会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口恵里子
2. 発表標題 "Richard Long ' s Walk-Works in Japan: Transference"
3. 学会等名 第69回美学会全国大会国際シンポジウム " Perfect and Imperfect Imperfectionist Aesthetics: Philosophy, Art, Culture" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口恵里子
2. 発表標題 芸術と犯罪 ワイルドとホームズの「インテリア」
3. 学会等名 日本ワイルド協会第43回大会 シンポジウム「オスカー・ワイルドとコナン・ドイル」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中 裕介
2. 発表標題 < 黄金の書 >としての聖書 - マシュー・アーノルドの宗教認識
3. 学会等名 シンポジウム「ヴィクトリア朝における信仰と懐疑」 第57回日本ペイター協会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川端康雄
2. 発表標題 文化と小芸術
3. 学会等名 シンポジウム「文化」を考える 日本英文学会における文化研究の可能性」日本英文学会第90回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大石和欣 (Kaz Oishi)
2. 発表標題 The Aesthetics of the Diaphanous and the Philosophy of the Ghostly in Lafacadio Hearn's Writings
3. 学会等名 The Aesthetics of Imperfection / Perfection (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口恵里子 (Eriko Yamaguchi)
2. 発表標題 Richard Long's Walk Works in Japan: Transference
3. 学会等名 The Aesthetics of Imperfection / Perfection (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 斑のデザインとピクチャレスクイギリス19世紀末の郊外住宅と文学
3. 学会等名 第9回合同沼地研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 南方熊楠から見たヴィクトリア朝 科学と神秘主義と文学 (司会・序論)
3. 学会等名 ヴィクトリア朝文化研究学会第17回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石和欣 (Kaz Oishi)
2. 発表標題 Ramifying Discourses on Philanthropy and Rights: Wordsworth, Coleridge, & a Forgotten Friend and Reformer
3. 学会等名 The English Language and Literature Association of Korea (ELLAK) (韓国英文学会) 全国大会 “Narrative of Rights” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中裕介
2. 発表標題 文献学者オスカー・ワイルド
3. 学会等名 日本ワイルド協会第42大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 アルヴィ宮本なほ子 (Nahoko Miyamoto Alvey)
2. 発表標題 Between ‘Bird-track’ Eastern Writing and ‘Sidewise Crab-walk Western Writing’: Tradition and Modernity in Natume Soseki
3. 学会等名 Seminar Series: School of English, Film, Theatre, and Media Studies, Department of English, Victoria University of Wellington (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川端康雄
2. 発表標題 ラスキン、グリーンウェイ、W・H・フーパーの協働 『リーのウィギンズおばさんと七匹の愉快的猫のおはなし』の復刻版(1882)の制作をめぐって
3. 学会等名 日本児童文学会東日本支部春の例会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川端康雄
2. 発表標題 「擬い物」に抗って ウィリアム・モリス晩年の講演 “Makeshift” (1894)についての一考察
3. 学会等名 第2回ウィリアム・モリス研究会 (意匠学会デザイン史分科会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石和欣 (Kaz Oishi)
2. 発表標題 Romanticism, Exoticism, and the Language of the Ghostly
3. 学会等名 Wordsworth Summer Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 「巡礼詩誦 歩く詩人ワーズワスの作品と生涯」
3. 学会等名 「歩く詩人 ワーズワスと芭蕉」展 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大石和欣 (Kaz Oishi)
2. 発表標題) Mystifying Without Diminishing the Literary Text: What Can We Learn from Lafcadio Hearn's Lectures on English Literature?
3. 学会等名 The 8th Liberlit Annual Conference “Demystifying without Diminishing the Literary Text” (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川端康雄
2. 発表標題 『社会主義者のための歌』 - - モリスのコミットメントと運動歌をめぐって
3. 学会等名 ウィリアム・モリス研究会 (意匠学会2016年度デザイン史分科会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中裕介 (Yusuke Tanaka)
2. 発表標題 Anthony Panizzi and the politics of museums in Victorian Britain
3. 学会等名 消費文化史研究会国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 Coleridge and Philanthropy in the 1810s: Lay Sermons Revisited
3. 学会等名 Wordsworth Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大石和欣
2. 発表標題 Philanthropy and Contemplation in Coleridge 's Lay Sermons
3. 学会等名 Coleridge and Contemplation Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中裕介
2. 発表標題 ヴィクトリア朝批評における「均衡」の觀念
3. 学会等名 日本英文学会 全国大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中裕介
2. 発表標題 戦後保守主義へのアフェクション 三島由紀夫と吉田健一
3. 学会等名 国際三島由紀夫シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 川端康雄
2. 発表標題 困われた庭と旅の記憶 『プラエテリタ』のスタイル
3. 学会等名 テキスト研究学会第15回大会(「ラスキンのスタイル」シンポジウム)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 河内 恵子、田尻 芳樹、遠藤不比人、生駒 夏美、大石 和欣、板倉 巖一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 312
3. 書名 現代イギリス小説の「今」	

1. 著者名 Alex Watson and Lawrence Williams, Mary Ellis Gibson, Ayako Wada, Kaz Oishi, Lu Jin, Ting Guo, Nahoko Miyamoto Alvey, Daniel Gallimore, Gimiyo Ogawa, Terence H. W. Shih, Rosalind Atkinson, Peter Otto, Steve Clark	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 414
3. 書名 British Romanticism in Asia	

1. 著者名 喜多崎親、佐藤直樹、尾関幸、山口恵里子、堀川麗子、松原知生、甲斐教行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 304
3. 書名 前ラファエッロ主義	

1. 著者名 富士川 義之(編著者)、原田 範行、藤巻 明、大石 和欣、吉川 朗子、田中 裕介、大淵 利春、道家 英穂、兼武 道子、山田 美穂子、結城 英雄、田尻 芳樹、辻 昌宏、高岸 冬詩、鎌田 禎子、島貴 香代子、平塚 博子、本荘 忠大、山辺 省太、松井 美穂、本村 浩二、山内 功一郎、遠藤 朋之、東 雄一郎、川崎 浩太郎、藤井 光	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 432
3. 書名 ノンフィクションの英米文学	

1. 著者名 武田将明、吉国浩哉、石井洋二郎、阿古智子、石橋純、秋草俊一郎、アルヴィ宮本なほ子、竹村義和、小林康夫、井坂理穂、品田悦一、桑田光平、山本芳久、石井剛、長谷川まゆ帆、日向太郎、前島志保、増田一夫、定松淳)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 270 (110-22)
3. 書名 分断された時代を生きる(アルヴィ宮本なほ子「マクレーが未来に託す言葉 「フランダースの野に」を読み継ぐ試み」)	

1. 著者名 Peter Cheyne, J. C. C. Mays, David E. Cooper, James Kirwan, Kathleen Wheeler, Roger Scruton, David Knight, Philip Aherne, Kaz Oishi, Andy Hamilton, Dillon Struwig, Cristina Flores, Douglas Headley, James Engell, Michael McGhee, Noriko Naohara, Suzanne E. Webster, J. Gerald Jansen	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 352 (123-142)
3. 書名 Coleridge and Contemplation (Kaz Oishi 'Contemplation and Philanthropy: Coleridge, Owen, and the 'Well-Being of Nations')	

1. 著者名 Peter Cheyne, J. C. C. Mays, David E. Cooper, James Kirwan, Kathleen Wheeler, Roger Scruton, David Knight, Philip Aherne, Kaz Oishi, Andy Hamilton, Dillon Struwig, Cristina Flores, Douglas Headley, James Engell, Michael McGhee, Noriko Naohara, Suzanne E. Webster, J. Gerald Jansen	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 352 [123-142]
3. 書名 Coleridge and Contemplation [Kaz Oishi, "Contemplation and Philanthropy: Coleridge, Owen, and the 'Well-Being of Nations'"]	

1. 著者名 大石和欣、デイヴィッド・ヴァリンズ、和氣節子、勝山久里、直原典子、藤井佳子、吉川朗子、アルヴィ 宮本なほ子、園田暁子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 未定
3. 書名 ロマン主義の価値を問う コウルリッジの思想と文学を軸に	

1. 著者名 田中孝信、要田圭治、原田範行、閑田朋子、侘美真理、本田蘭子、市川千恵子、川端康雄、武藤浩史	4. 発行年 2016年
2. 出版社 彩流社	5. 総ページ数 416
3. 書名 2016 セクシュアリティとヴィクトリア朝文化	

1. 著者名 江藤秀一、山木聖史、竹谷悦子、江藤光紀、一谷智子、堀真理子、山口恵里子、清水知子、巽孝之、鈴木章能、仙葉豊、朴宣美、向井秀忠、松本三枝子、中田元子、対馬美千子、井石哲也、安藤聡、長岡真吾	4. 発行年 2016年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 510 [189-232]
3. 書名 帝国と文化 シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで [山口恵里子「ジョン・ロックウッド・キプリングとインドのクラフツマンシップ 未来への記録」]	

1. 著者名 井上隆史、松本、日地谷 - キルシュネライト、キーン、徳岡、平野、芥、高橋、ネイピア、四方田、ウォシュバーン、竹本、中村、ヴィンセント、フラナガン、浜崎、南、梶尾、久保田、有元、武内、田尻、田中裕介、遠藤、福田、ローラン、佐々木、原、広瀬、レイサイド、宮本、細江、三輪、山中、佐藤	4. 発行年 2016年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 462 [285-294]
3. 書名 井上隆史 / 久保田裕子 / 田尻芳樹 / 福田大輔 / 山中剛史 (編) 『混沌と抗戦 三島由紀夫と日本、そして世界』 [第一部第4章中の「戦後保守主義へのアフェクション 三島由紀夫と吉田健一」を田中裕介が分担執筆]	

1. 著者名 大石和欣 (共著者) (編著者 Peter Cheyne)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 未定
3. 書名 "Contemplation and Philanthropy: Coleridge, Owen, and the 'Well-Being of Nations' " (書名 Coleridge and Contemplation)	

1. 著者名 山口恵里子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 未定
3. 書名 「ジョン・ロックウッド・キプリングとインドのクラフツマンシップ;未来への記録」 『帝国と文化』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 裕介 (Tanaka Yusuke) (00635740)	青山学院大学・文学部・准教授 (32601)	
研究分担者	山口 恵里子 (Eriko Yamaguchi) (20292493)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	アルヴィー なほ子 (宮本なほ子) (Alvey Miyamoto Nahoko) (20313174)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	デイヴィッド ヴァリンズ (Vallins David) (70403623)	広島大学・文学研究科・教授 (15401)	
研究分担者	川端 康雄 (Yasuo Kawabata) (80214683)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	